

開催地名：奈良県桜井市	
開催日時	令和2年2月16日（日） 10：00 ～ 11：30
開催場所	桜井市立図書館
語り部	吉田 亮一 （宮城県仙台市）
参加者	市内自治会、自主防災組織等 約150名
開催経緯	地震、台風、記録的豪雨など様々な自然災害が日本全国で多発している。桜井市内には奈良盆地東縁断層帯が走り、最大震度7の地震が想定されているが、これまで大きな災害を経験したことがないため、災害に対する危機意識や備えが十分とは言えない状況である。語り部講演を、自治会や自主防災組織を中心としたメンバーに実施することで、防災意識の向上につなげたい。
内容	（１） 防災の基本とは 防災の基本は立場や役割とは関係なく、自助、共助、公助と全ての人に関係していると思う。「心配ない」、「ありえない」、「大丈夫」、「まさかと思う」。これらは全て人間だけが思うことである。防災は、危機感と想定以上の備えが基本である。全ての責任者は、最大の危機感と想定以上の備えで命を守ることを是非お願いしたいと思う。 ・危機感：相手は自然災害。「まさか」が起こりうる。→ これが災害である。 ・想定以上の備え：「想定外という言葉は単なる言い訳」 ・自助：各家庭における防災は災害の知識・備え・共助への理解と努力。 → 家庭では、住宅の耐震（外壁を含む）、室内の点検、食料・水の備蓄等を行い、車の燃料はこまめに満タンにしていきたい。 ・共助：地域において、自助への協力と公助に頼らず共助で解決する。 → 人間には考える力、行動する力がある。自然災害に勝つには、危機感と想定以上の備えが必要。 （２） 住民主体の地域防災 私は仙台市で保育園を経営する傍ら、平成18年より、地元仙台市太白区茂庭台5丁目町内会の防災統轄をつとめている。私が町内会の防災統轄をつとめるようになってから、まずは「想定」以上の備えを積み重ねてきた。それは「最悪の事態を想定」しておけば、様々な事態に対して地域として対応ができるからである。地震に限らず、他の大規模災害についても同様だと思っている。だからこそ、それに耐えうる「想定」以上の備えが必要になる。従って、地域の方々には「想定外」というのは通用しないということを常々伝えている。私たちの地域は平成18年から、5年間の計画で災害に備えてあらゆる準備をしてきた。まずは

	「防災マップ」の作成、次にマニュアルの作成。さらには「自主防災組織」も作り、そして、防災勉強会を実施した上で、防災訓練まで行った。そして、定期開催の防災訓練では、普段自宅や地域にいる大人や高齢者、小学生の子供を中心に行った。なぜなら働いている大人の方々は、平日は地域に居ないケースが多いうえ、職場や現場等の復旧に駆り出されてしまい、当てにできないからである。また、地域内の介助者として、元医師、看護師、福祉保健士、学校の先生等であった方々を募り、災害発生時の協力を約束してもらうこととした。 (3) 最後に 避難所の運営は地域町内会や自治会の役割であり、その避難所におけるルール設定については地域住民全員が認識しておかなければならず、地域と学校が一体になることが最も重要であると思う。このように、先であげた「想定以上の備え」を徹底したため、大震災を乗り越え、様々な災害にも対応できることが実証できたと思っている。さらに来るべき災害に備えて、災害に備えて、皆さんに以下の3点をお願いし、今まで以上に日頃からの防災・減災に対する取り組みを継続していただきたいと思う。 ・ 家族間での災害発生時の安否確認や連絡方法、非常用持出品についての確認 ・ 自宅の耐震、家具の固定 ・ 非常用の備蓄（ローリングストック法） 特別なものを用意するのではなく、普段の生活に組み入れながら、常にある程度蓄えておくことを心がける。
開催地より	想定以上の準備を行い、東日本大震災を乗り越えた語り部のお話は、非常に参考になるものだった。本日参加した市内自治会、自主防災組織のメンバーにも、とても有効な情報だったと思うので、今後の防災活動に活かしていきたい。